富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議
平成２７年度第２回中小企業支援専門部会（要旨）

１　日　時　　平成２７年１２月１５日（火）１４：００～１６：００

２　場　所　　富山県農協会館８０１

３　説明事項

（１）平成 26 年度 県中小企業振興施策の実施状況について
（２）平成 27 年度 県中小企業振興施策等について
（３）県ものづくり産業未来戦略雇用創造プロジェクト 平成 27 年度の取組み状況について

４　委員からの主な意見

【中小企業の振興全般について】

・ある企業では、高校生と唐辛子を栽培したり、ラーメンの開発をしたり、いわば「農商校連携」を行っている。一時的には盛り上がったが、一過性の盛り上がりではなく、その先につながるような支援が必要。

・創業や新事業展開に関する保証の 27 年度実績は、前年比で増加している。当協会独自の相談体制にも力を入れている。

・このままでの事業展開では厳しいと考える経営者は多いが、先行きが不透明ななか、具体的にどのようなことに取り組めばいいのか、悩んでいるケースが多い。

【創業支援について】

・日本政策金融公庫では、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」を開催している。高校生のころから起業への意欲を醸成する取組みが必要。

・当支店での創業融資実績は前年比 100%以上であるが、生活衛生関連の創業が多く、ものづくりの創業は少ない。ものづくりの起業・創業への支援が課題。

・山口県や福井県では、ＵＩＪターン創業をねらいとして都市圏でのセミナーを開催している例もある。

・創業しても 3 年のうちに 65%ほどが廃業となる。そのため、創業者への巡回相談を強化しているが、経営者は孤独だという悩みが一番多い。富山商工会議所ではビジネス交流会の開催など、側面的なサポートも行っている。経済面だけではなく精神面でのサポートも大切。

・起業家の発掘のためのシステムが必要。例えば、創業・ビジネスコンペを行ったうえで助成する手法もあるのではないか。

【地方創生への取組みについて】

・都市圏の人材のＵＩＪターンを促進するため、人材派遣会社と連携して、後継者等の人材育成、移住、住み替えを支援する「ふるさと就職応援プラットフォーム」を構築した。これから関係各所と連携し進めていきたい。

・全国のネットワーク（コーディネーター）と連携しながら、地域の優れた技術を有する中小企業を大企業に紹介するプロジェクトも行っている。

・人口減少対策については、何に注力するのか、ある程度大枠で考えないといけない。県内だけで人材を確保できなければ県外や国内からも人を引き寄せなければならないだろう。そうした青写真を描くことが必要。

【販路開拓について】

・販路開拓には知識も技術も必要になるため、先進企業を視察させるなど、勉強の機会を設けている。展示会には若手を出させるなどして、若い人が外に出てお客さんの評価を直接聞く機会を作ることが必要。

・商工会議所連合会では、北陸 3 県のほか、新幹線 13 駅の商工会議所と連携して「とやまビジネスドラフト」を開催している。来年度は関西地区も加わり、今のところ約 40 の商工会議所からエントリーがある。ブースを並べるだけではなく、マッチングも行っている。会議所の仕事はリアルにやっていき結果につなげていくことが大切と考えている。

【事業承継・後継者の確保について】

・後継者がいないので、新たな取組みへのやる気が出ない事業主もいるのではないか。ＵＩＪターンの支援は、就職だけでなく、事業の後継者を募集するようなマッチングもあればいい。

・事業承継はメーカーなのか商店なのかで課題や対策が異なるので、ひとくくりにして支援策を検討するのは難しく、オーダーメイドの対応策が必要。

・商店街で、親が引退したあとどうするかについて、再開発のときにネックになる。商店街から撤退する人の不動産売却に関する税の特例があればいい。

・事業承継を成功させるには早めに相談いただくことが大切である。事業承継は、銀行にとっても大きな課題のひとつであり、銀行業界のほうでも対策を考えなくてはならない。

・新世紀産業機構では、10 月 1 日に、事業引継ぎ支援センターを開設し、本格的な相談対応をスタートさせた。後継者問題は業種や形態（負債の有無等）により、タイプ分けして支援することが必要。

【人材の育成・確保について】

・大手企業の定年延長・雇用延長により、以前は大手企業を定年退職後に中小企業に再就職していたような、優秀なベテラン技術者が来なくなっている。定年後のベテラン人材の中小企業への再就職を促進するような施策が必要。

・人材不足の声はあらゆる業種からあがっている。学校のキャリア担当と話をする機会があったが、特に県外に進学した学生は、地元の中小企業のことをよく知らないのでなかなかエントリーしないのではないかということだった。来年度からは富山県からの進学者が多い県外の学校を訪問しての求人活動も考えている。

・中小企業では新卒の薬剤師がなかなか採用できないので、中途採用が主となっている。

・雇用の延長に関して、安全管理担当者が不足しているようで、65 歳以上でも求人の話がある。

・県西部の大型店の開業により、従業員不足となっている。今後２～３年で廃業が増えるのではないかと懸念している。

・女性の UIJ ターンをもっと促進できないか考えている。

・石川県の精密メーカーで、企業の技術者を先生（マイスター）として工業高校に派遣するほか、高卒で採用し、技術者を自社で育成している例がある。

【キャリア教育・ものづくり教育について】

・ものづくりに興味がある人を増やすため、現在、中学校でのものづくり教育を実施している。このような取組みを小学校から大学まで一貫して行い、ものづくりの楽しさや夢を若い人たちに伝えていくことが大切。

・インターンシップや 14 歳の挑戦のみでは、中小企業の魅力を伝えきれていない。小学校からのキャリア教育、ものづくり教育を充実させるほか、親に向けても中小企業の魅力を伝えていくことが必要。

・化学工業会の会員企業はほとんど上場企業であり、我々が元気になっていくことが地域の活性化につながると考えている。工場の周辺に自然公園を作り、周辺住民の皆さんに興味を持ってもらう取組みを行う企業もある。

・経済同友会では、年間 13～15 件程度、小中学校、高校に経営者を派遣している。今年は 13 年目で通算 200 件以上の派遣実績がある。大阪商工会議所では「大阪企業家ミュージアム」で企業家を紹介しているが、当同友会では、企業家というより身近な中小企業を地域住民の皆さんに紹介する取組みができないか考えている。ものづくり総合見本市で行われた「企業研究ラリー」は面白い取組みだと思う。

・社会見学や講師派遣を実施できるかどうかは校長先生にかかっている。先生方の意識を変えられるようなアプローチも必要。

【業界の動向について】

・商店街では実店舗のほか、インターネット通販をやっている個店もある。売上の 7 割がインターネット通販という店もあるようだ。

・日本全体で繊維関係の需要は縮小傾向にある。自分たちの強みを発揮するため、海外への事業展開やジャパンクリエーションへの出展など、新規の顧客開拓に努めている。

・工業技術センターに新しい機械は導入されているが、共同研究のためのスタッフを増員してほしい。一方で古い機械を扱える人員も必要なので、今のうちから技術継承をしてほしい。民間と県が一緒になってものづくりを考えることが、産業の下支えになる。

・アルミ業界では、建材需要の他にも新たな事業の柱を作ることが必要だと考えており、技術開発に努めている。また、アルミリサイクルの後継者がいないことも課題であり、事業の継続のためにはさらなる技術革新が必要だと考えている。技術開発に関する支援をお願いしたい。

・配置用医薬品の生産金額は 10 年前の約半分になっている。配置用医薬品メーカーに集まってもらい、活性化策を検討する予定。各社が自社の強みをどう認識し、やっていくのかが大切。